

# 子育て事業部ニュース原稿

墨田区八広はなみずき児童館  
館長 山田恭平

## 『復見えてきたもの』

自分からお願いをし、NPO法人ワーカーズコープの合宿に参加させていただいた。石巻・女川など言葉では言い表せない状態に町がなっていた。本当に自然の力は怖い。改め僕らは自然の中で生かされ、日本は海に囲まれた島国であることを実感した。

仙台駅で、帰りに少し時間ができたので、仙台市にあるワーカーズの児童館まで足をのばした。

今回、行かせてもらったのは、国見児童館。自分が到着したのは、6時ギリギリ。事務室では、今日の様子を話したり、片付け・明日の準備など職員さんがアットホームに過ごしていた。学童室では、担当の職員とお迎えを待っている児童が映画を見たりしている。保護者が迎えにくると元気に「さようなら！」と言って帰っていく。どこにでもある児童館・学童の様子が災害のあった仙台市にもあった。

今回の災害で、本来あるはずなのに見えなくなっていた「人と人のつながり」「地域とのつながり」をはっきりと再確認できた。都内にいると、昼夜関係なしで時間に追われてしまう生活。便利さ・快適さばかりを追求し、私自身も自分にとって都合の良いつくられた社会を求めていた。今回、震災地に行かせてもらったことで、「困っている人がいれば声をかける」「困っていれば声をかけてくれる」昔からあったけど見えづらくなっていたもの。共に響きあう「響感」し合える人と人のつながりがみえてきた。

今回の震災に対し、「自分は何ができるか。」が問われている。「東京だからできるもの」「子育て現場だからでいること」「私だからできること」こんな時だから自分を信じ便利差ではない、心の豊かさを求め子育て現場をNPO法人ワーカーズで実現していきたい。